

## 第7回

# 東大和市社会教育委員会議 会議録

令和2年11月17日（火）

令和2年第7回 東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和2年11月17日（火）午前10時～午前11時40分
- 2 場 所： 市役所会議棟第6・7会議室
- 3 出席委員： 荒川進、大月孝彦、杉本誠一、柳澤明、村山和子、  
森脇千春、外池武嗣（7人）  
  
欠席委員： 和田孝、藤井嘉也（2人）
- 4 事務局： 眞中係長、関口主事（2人）
- 5 内 容： 議題（1）研究テーマについて  
議題（2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： 0人

○荒川議長 ただ今より、令和2年度第7回東大和市社会教育委員会議を開催いたします。よろしくお願ひします。議題に入る前に、配布資料を確認します。

○関口主事 配布資料を確認させていただきます。まず、「令和2年度第7回東大和市社会教育委員会議次第」でございます。続きまして資料1が、「令和2年度第2ブロック研修会参加者数」でございます。続きまして資料2が、「第63回全国社会教育研究大会石川大会における分科会事例発表者の公募について」でございます。また、大月副議長からの追加資料を2点お配りいたしました。その他、配布資料として「こうみんかんだより」と「社教連会報」をお配りいたしました。以上です。

### (1) 研究テーマについて

○荒川議長 それでは、議題(1)研究テーマについて、議論を進めます。前回配布した「令和2年度から3年度の提言の研究の構想」のワークシートに記入してきた内容を基にしながら、研究テーマの案やその背景などを自由に話していただければと思います。

○村山委員 私は、高齢者が心豊かに過ごせるまちづくりを、研究テーマにしたいと考えました。先日、交通量の多い通りにある狭い歩道を歩いていた時に、向かいから足が不自由な高齢者の方が来たため、私が道を譲ったところ、ありがとうございますとくださったことがありました。その時は、私も嬉しかったし、その方もきっとゆったり歩道を歩いて安心だったのだと思います。身体が不自由な方でも、高齢者でも安心して過ごせる地域になったらいいなという意味を込めて、テーマ案を考えました。

○森脇委員 私は、高齢者の方々が集える場所を作るということを、研究テーマにしたいと考えました。高齢者の方と言っても、社交的で元気に活動されている方と、引っ込み思案で家で過ごす方がいらっしゃるのではないかと思います。サークル活動などに積極的に参加することに抵抗がある方でも、気負わずに行けて、のんびり過ごしながら来る人と世間話ができるような場所ができると良いと思います。設置場所は、駅前広場やハミングホール周辺、向原の中央公園を想定しました。座る場所を多く用意して、野菜や飲み物の販売などがあると良いと思います。

また、視察候補として、湖畔の集いというサークルを提案します。充実した活動をされており、男性の参加者が多いという点が珍しく、話を伺ってみたいと思います。

○外池委員 私は、高齢者、交流、教育の3つのキーワードを設定して、具体的にどのような事業があるのか調べました。まず、高齢者の力を生かす施策としては、シルバー人材センターはもとより、小中学校での講演などもあります。積極的に活動されている高齢者の方は、人のために活躍したいという意識が高いと思います。また、高齢者は健康やスポーツにも関心が高いと思います。例えば、無理のないラジオ体操などは、参加者も多いようです。

テーマ決めに関しては、あまり福祉にまで間口を広げず、社会教育としての高齢者対象の事業を考えていくべきだと思います。まずは、実際にどのような事業が行われているかを洗い出し、それらの事業が高齢者の方々のニーズに合っているのか、意識調査をすると良いと思います。根拠に基づく形で、理論的にまとめていきたいです。

○荒川議長 現状の把握としては、学びあいガイドが参考になると思います。市民が自発的に活動しているサークル活動や公民館主催の高齢者対象の講座などを一覧表で見ることができます。

○外池委員 各活動の対象年齢は把握できるのでしょうか。

○眞中係長 高齢者向けも子ども向けもあります。市民の方が学びあいガイドを見て、参加したい活動を選び、その代表者に連絡をして、参加することができます。また、学びあいガイドは自発的に参加していただくための材料として用意していますが、行政としては、多摩湖塾という名称の事業を行っていま

す。市の仕事に対して関心がある方に、担当部署の職員が講師になり、勉強会を開催しています。社会教育というものは、多様な取組方法があると思います。

**○荒川議長** 私は、外池委員の案に関連して、高齢者が人生で培った経験を使える場所を作ること、研究テーマとして提案したいと思います。高齢者は、自分の人生経験を誇りに思っている人が多く、それを活用することが心豊かに暮らすことに繋がります。活用する場所については、学校教育においても、地域の高齢者が登壇できるような授業を設定することができると思います。実体験に基づいた話ができるので、子どもにとっても豊かな教育になり、高齢者にとっても教えるということが自らの教育になります。この活動は、社会教育と学校教育の双方に良い影響を与えることができるものだと思います。

**○森脇委員** 学校教育との活動の話ですが、数年前に、第二小学校の放課後子ども教室へ訪問した際に、ボランティアの書道の先生が数人の子どもたちに教えていらっしゃいました。学校の授業でも書初めの練習などで教える機会はあると思いますが、経験のあるボランティアの方に教えてもらえる貴重な機会だと思いました。ただ、ボランティアに登録している方も、学校からの依頼がなければ授業に入ることはできません。学校教育も積極的に活用されるよう期待します。

**○杉本委員** 私も、高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりというテーマがいいと思います。高齢者は徐々に活動範囲が狭くなり、家の外へ出る機会が減ってきます。さらに、このコロナ禍においては、単ごもり状態になり、外の世界との接触の機会は非常に少なくなっています。こういった状況が、老化のスピードを早めてしまうと思うのです。様々な社会教育の活動がありますが、まだ活動されておらず、引きこもりがちな高齢者の方には、活動にいきなり参加するよりも先に、まず外出する機会を作ることが必要だと考えました。

高齢者仲間が声掛けをするというのはもちろん大事ですが、例えば、前回提言した、子どもの安全という観点では、小中学校の子どもたちの登下校の見守りのために、玄関先へ出てくださいというお願いすることもできます。学校側からも子どもたちに、高齢者には積極的に挨拶しましょうという教育をしてもらえれば、そこで子どもと高齢者の心の交流が生まれます。そうすると、玄関先へ出るという行動から、次の段階に発展して、近所の人との井戸端会議のようなものができたり、そこから他の活動にも参加してみようという気持ちになってもらえるのではないかと思います。

**○荒川議長** 登下校の見守り活動は、高齢者にとっても良いものです。私は、西多摩郡の学校へ講師という立場で行った際に、挨拶をしましょうという道德の授業で、その学校の校門の前に畑を持っている高齢男性の方をお呼びして、毎日の登下校の様子が地域にどのように見えているかをお話いただきました。子どもたちはいつも元気に挨拶してくれて、下校時には「畑のお仕事は大変ですね」と声を掛けてくれて嬉しいと話されていました。やはり、学校教育と社会教育が双方に与える影響は大きいと思います。

**○柳澤委員** 私は、市内の65歳以上の高齢者のうち、何%くらいが社会教育関係の活動に参加しているのかを知りたいです。積極的に活動している人は、いくつもの活動に参加しています。その一方で、全く活動していない人もいると思うのです。公民館にて地域デビュー講座というものが、数年前から開催されていました。定年を迎えた方々に、地域活動に参加してもらうきっかけを作ろうという趣旨でしたが、参加者が集まらず、現在は中止になってしまいました。そのことから、新規参加してもらうのは非常に難しいことであると認識しています。新たな人間関係を築くことが億劫だという考えもありますし、病気で外出できない方もいると思うので、全ての高齢者に外に出てもらうことは難しいと思います。

また、地域の需要と供給が合った活動をするという視点も重要だと思います。毎年、新堀地区会館で開催されるシニア向け講座があるのですが、人数制限があり、応募者多数につき落選する人が出るほど盛況ということがあります。人気講座は複数回開催にするなど、需要と供給のバランスも必要です。

○杉本委員 スポーツ関係であれば、体育協会の各競技団体がシニア向けの教室を開催しています。私が指導している水泳教室は初心者向けで、水泳を始めてみたいという方々が毎年参加されています。テニスやバレーボールなども初心者向けの教室があり、始めやすい環境は整っていると思いますが、その前に、まず外に出て、初めの一步を踏み出してもらう方法を考える必要があると思います。

○外池委員 初めの一步という点では、飼い犬を連れた高齢者の集まりというものもあります。空堀川沿いの広場では、飼い犬を連れた高齢者が集まって交流をしている様子がよく見られます。

○大月副議長 私も以前犬を飼っていました。都立東大和南公園に散歩に来る人たちで、ワンワンクラブという会合を作り、犬の名前と連絡先などを登録して、集まって交流していました。

私のテーマ案は、お配りした資料のとおり、「高齢者が安全かついきいきと暮らせる社会づくり」と掲げ、サブタイトルを「ポジティブに前向きに、プラス思考で高齢者が生きられるように」と設定しました。

提言内容を3つ考えました。まず1つ目は、家に引きこもりがちな高齢男性に外へ出てもらうために、人が自然と集まり気軽に話ができる場所を作るというものです。具体的には、公園にベンチを増やしたり、景色を眺める場所を作るということを想定しています。これは、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）防止という点でも有効だと思っています。集まって話ができる場所ということでは、サロン活動がありますが、利用者は女性が圧倒的に多く、男性はほとんどいません。男性は定年を迎えて仕事を辞め、次の日からいきなり地域で活動するのは難しいものです。私は、地域に奉仕すると数年前から決めて、62歳で仕事を辞める前から地域活動に参加していました。定年を迎える前にも、地域社会に溶け込めるように活動しておく必要があるという視点も重要であると思います

2つ目は、介護サービスの利用方法の事前講習のような事業を作るというものです。介護が必要になってから、慌てて介護制度の説明を受けてサービスを利用するのではなく、介護保険を支払い始める頃に、講習や事前登録ができる仕組みを作るとよいと思います。聞き取り調査は、社会福祉協議会や市の福祉部、在宅介護をやっている介護施設等が想定されます。

3つ目は、既に話に挙がっているように、地域の高齢者の人材活用についてであります。私も第二小学校でゲストティーチャーとして昔の東大和市の話をお話したことがあります。児童にも大変反響があり、私も嬉しく思いました。高齢者が、家庭、地域、企業、社会の各分野において、それまで培った豊かな経験と知識や技能を活かし、健康に社会参加できるようにすることが重要だと思います。

○荒川議長 ここまでの議論を聞いて、事務局からも意見をいただけますか。

○関口主事 地域の社会教育活動にまだ参加されていない市民の方は、どういう活動をされているのかよく知らないというところもあると思います。例えば、花壇の手入れや畑仕事などの得意分野には真剣に取り組めるとか、興味が持てる活動があると知れば、参加してもらえるのではないかと思います。

○荒川議長 学校の花壇の手入れについても、地域の活動できれいにするだけではなく、子どもと一緒に植えて、その技術を教えれば、素晴らしい教育になるという視点もあります。

○眞中係長 皆様のお話を伺って、感じたことが2点あります。1点目は、これは高齢者に限る話ではなく、何か新しいことを始める時に、障壁があると躊躇するということです。具体的な案はまだないのですが、バリアフリーになるような仕掛けがあるとよいと思います。

2点目は、先ほどのお話にも出たように、需要と供給のバランスが重要になると思います。例えば、講座を開催しても参加者が少なければ成り立ちませんし、逆に開催したい講座があっても、知識や技術を持つ講師が見つからないということもあるかと思っています。人材バンク事業は、それをマッチングさせるための社会教育課の事業であります。いずれの活動においても、需要と供給のバランスを取る仕組みを考えることが必要だと思います。そうすると、自然にそれぞれ持っている力を発揮できるような形にな

り、さらにそれが継続すれば一番良いと思います。

○荒川議長 今日議論では、家に引きこもりがちな高齢者の方に、外に出てもらえるような仕組みを作るという点がポイントになったと思います。特に、昨今の時代背景を踏まえれば、この問題は長期化するものと思われます。その視点を踏まえて、次回以降も引き続き議論を進めましょう。

## (2) その他

○荒川議長 それでは、議題(2)その他として、事務局より事務連絡をお願いします。

○関口主事 本日2点の連絡事項がございます。

まず、資料1をご覧ください。前回ご質問のありました、第2ブロック研修の参加者の内訳についてまとめた資料をご用意しました。ブロック外では小平市と武蔵野市からのご参加がありました。

次に、資料2をご覧ください。資料のとおり、来年の石川大会の分科会の連絡がございましたので、お示しさせていただきます。ただ、長距離移動であることや新型コロナウイルス感染症の感染リスクもあることから、正副議長のご意向を踏まえ、参加はしない方向で調整したいと思っております。

○荒川議長 大月副議長からも資料が出ていますので、説明していただきます。

○大月副議長 まず、東大和市内の地域別の人口分布図を配布しました。大和通り商店街の商工会が令和元年に作った資料で、16地域にわけて、平成30年までの人口推移が書かれています。例えば、桜が丘地区は、他の地域に比べ、0歳から19歳の人口が多くなっています。ただ、どの地域も共通して、60歳以上の人口が多いです。これが東大和の現状だと思います。今回のテーマである高齢者の問題を取り上げるに当たり、まず基本的な数値を押さえていくべきだと思います。

次に、研究の参考になればと思い、地域の活動事例をいくつか紹介します。まず、先日の会議に挙げた東大和音頭についてです。昔は第二小学校の校庭で盆踊りをやっていましたが、子どもの頃の楽しかった記憶から、それを今の子どもたちにも教えたいと、有志が復活させたというものです。今年はデモンストレーションだけでしたが、40代中心の若い有志の方々が作り上げたもので、大変迫力がありました。次に、前回の提言でも触れた、子どもたちを助ける救急ハウスについてです。PTA役員からの依頼で、自治会の月刊誌に看板設置の募集を掲載したところ、新たに3件の設置申込があり、効果があったのでお知らせします。最後に、防災倉庫についてです。自分の加入している自治会で、公園に防災倉庫を設置しました。国有地のため、設置までの手続きに苦労しました。参考になりましたら幸いです。

○荒川議長 非常に参考になる資料をありがとうございました。ご質問などはありますでしょうか。

○柳澤委員 若い方々の活動が話に挙がりましたが、団体構成員の高齢化はどの団体も課題になっていると思います。文化協会も若い方の新規加入がないので、後継者問題が懸念されています。

○大月副議長 若い人に声を掛けていくしかないと思います。自治会でも同様の問題を抱えています。

○杉本委員 私は体育協会で活動していますが、加盟団体も含めて、高齢化や後継者問題は上がっています。若い人はいるのですが、役員になってもらえる人材がおらず、特定の人に役割が集中してしまう傾向があります。このような問題があるため、議題(1)でも話に挙げたように、活動に参加することに抵抗を感じる人もいるのであろうと思います。

○荒川議長 提言に向けて研究を進めるに当たり、今日は良い材料となる話がたくさん出ました。最後に、本日のまとめをお願いします。

○大月副議長 今日は有意義な議論ができました。これを集約して、どのようなものにするか、視察など

もしながら、提言にまとめられればと思います。

○荒川議長 次回の会議は、12月15日午前10時からです。ありがとうございました。